

CCFA (Codex Committee on Food Additives : コーデックス食品添加物部会)

Codex 委員会の一般問題部会の一つで、食品添加物とともに加工助剤について横断的に検討する。一般問題部会では CCFH とともに最も古く 1964 年に第一回を開催している。1987 年に汚染物質が検討対象に加えられ CCFAC (Codex Committee on Food Additives and Contaminants)となったが、2006 年に汚染物質を専門とする CCCF が独立し、再度 CCFA となった。2025 年末までに合計 55 回開催された。ホスト国は 1964 から 2006 年までオランダ王国、それ以降は中華人民共和国である。

任務は、①個別の食品添加物の最大使用レベルを決定または承認、②FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議 (JECFA) にリスク評価を依頼する食品添加物の優先リストを作成、③個別食品添加物を機能によって分類、④食品添加物の同定と純度に関する仕様書を採択するよう総会に勧告、⑤食品中の食品添加物の分析法を検討、⑥関連分野の規格（以下参照）や規範などを検討することである。

食品に使用される食品添加物の最大使用レベル (maximum use level) は、①JECFA が安全性を評価して ADI (acceptable daily intake, 一日許容摂取量)の数値が決定されているか特定する必要がないとされていること、②仕様書が作成されていること (Codex ではリストを公表、CXA-6-2024)、③使用が予定されている食品または食品のグループが明確であることを要件として、検討・勧告される。最大使用レベルは実際に食品 1 キロあたりに使用される重量で記載され、最終食品中の濃度ではないことに留意する必要がある。一部の添加物については「適正製造規範(good manufacturing practice, GMP)によって決まる(limited by GMP)」という記述もある。香料などはその例である。以前は、個別食品の規格が食品添加物条項を含んでいたが、現在は「食品添加物の一般規格 (CXS 192-1995)」にまとめて記載されている。

他の勧告として、以下の規格とガイドラインがある。

- 食品添加物を食品添加物として販売する際の表示に関する一般規格 (CXS 107-1981)
- 食品グレードの食塩の規格 (CXS 150-1985)
- 食品添加物の経口摂取の簡便な評価 (CXG 3-1989)
- 食品添加物の分類名と国際番号システム (CXG 36-1989)
- 香料の使用 (CXG 66-2008)
- 加工助剤として使用される物質 (CXG 75-2010)

(山田 友紀子)